



幸手市立西中学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標

自己実現を目指し、心豊かな人

- 1 自ら学ぶ生徒
- 2 思いやりのある生徒
- 3 心身を鍛える生徒

学校研修課題

自ら学ぶ生徒の育成

～生徒がひとり残らず50分学び続ける授業づくり～

本年度の重点

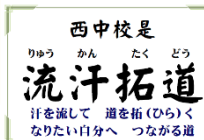
- 1 学びあいによる授業改善
- 2 単元テスト・再チャレンジテストの実施による学習内容定着、学習意欲向上

目標達成の指針

- 1 全国学力・学習状況調査
平均正答率
- 2 埼玉県学力・学習状況調査
学力の伸び
- 3 各種学力テスト
平均正答率
- 4 生徒アンケート
「わかりやすい授業」 平均値（4段階）
- 5 生徒アンケート
「自分の意見発表」 平均値（4段階）

なりたい自分になるために努力する、心豊かな生徒を育成します。

学校の共通行動



生徒指導・教育相談体制の充実

生徒との信頼関係を構築するため、全教職員が組織的に生徒と関わり、特に生徒の「よさ」を見出すことに努めるとともに、生徒の健全な成長を支援する。また、見出した「よさ」を認めるため、校内善行賞「善泉賞」を設けて「よさ」を称賛し、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

自律心の育成

「スケジュール機能付き生活ノート」を活用して、日々の生活を生徒が自分で管理する能力を育成し、さらに「ノーチャイムの学校」で、生徒が自ら時計を見て行動できるよう支援する。

生徒の実態把握

各種調査や学校独自の生徒アンケートで、生徒の実態把握を行い、本校の取組の課題と成果を明らかにする。その上で改善策を考え、さらなる向上を図る。

授業外での取組



単元テスト・再チャレンジテスト実施

国、数、社、理、英については、単元終了後にテストを実施、生徒が単元ごとに学習内容の理解度が振り返られるように支援する。さらに、「わからなかったものがわかるようにする」ために単元テストとほぼ同じ内容の再チャレンジテストを行い、生徒の「わかるようになった」「点数が上がった」等の実感を増やし、生徒の学習意欲を図る。

年3回の学力テスト実施

生徒が学年内で自分のおおよその学力の位置等を把握したり、やや長いスパンでの学習にも慣れるようにするための取組とする。評価、評定の材料とはしない。

基礎学力定着

小テストや復習シートの計画的な実施により、基礎学力の定着を図る。

朝読書を毎日実施

確かな授業実践



「学びあい」の授業づくり

一斉授業の教室から、4人グループを積極的に活用した生徒が学ぶ授業への転換を推進する。4人グループ内では、生徒同士の聴き合う関係や他の生徒の学習が見える環境を重視し、「ケアの共同体」としての教室づくりを積極的に行う。

教師は学びのファシリテーターとして、課題を工夫したり、生徒同士の意見や考えをつないだりする等、教師主導の教え込み授業からの脱却を目指す。

「学びの三か条」共有

1わからなときは、周りの友達に聞くべし、2聞かれないときは、相手がわかるまで教えるべし、3聞かれないときは、余計なお節介は慎むべしの三か条を全校で共有する。

学びあう教師

原則月1回の学年授業研究会、年3回の全校授業研究会を実施し、教師が生徒の姿から学ぶ研修を重視する。

家庭・学校間連携



家庭学習習慣化促進

国、数、社、理、英だけでも年7回程度の単元テストがあり、さらに再チャレンジテストもあるので、生徒がそれらに向けて計画的に取り組むよう支援することにより、家庭学習時間の増加や家庭学習習慣の定着を図る。

一人一台のタブレット活用

「タブレットを使い倒す」の考え方のもと、生徒が日常的に活用できる環境や授業を構築する。また、双方向型授業やオンライン集会等としても積極的に活用する。

校区間連携

西中校区小中学校教職員合同研修会を実施し、校区内小中学校の教職員が相互理解を深め、小学校同士、小学校と中学校における学習内容の系統性や共通して指導できる項目を確認等を行い、校区間連携を強化する。また、西中校区学校運営協議会も引き続き開催し、地域も含めて、校区間の相互理解、連携を強化する。